

## 第5回 清瀬市新庁舎建設基本計画策定委員会 議事録（要旨）

日 時： 平成26年4月15日（火曜日） 18：00～19：30

場 所： 男女共同参画センター 4階 会議室1・2

事務局： 企画部新庁舎建設室新庁舎建設係

出席者： 委員10名（澄川委員、三井所委員、山本委員、齊藤委員、波澄委員、  
小山委員、下嶋委員、中川委員、林委員、八代田委員）

その他5名（企画部長、企画部新庁舎建設室長、他3名）

コンサルタント3名（山口、上原、一戸）

欠席者： 委員2名（平倉委員、菊間委員）

傍聴者： 1名

### 会議次第

1. 開催の挨拶
2. 前回議事録確認
3. 配布資料説明
4. 議事
  - (1) 新庁舎建設の基本方針について
  - (2) 新庁舎に求められる機能と実施方策について
5. その他
6. 閉会

### 配布資料

- ・ 本日次第
- ・ 第4回委員会議事録（案）
- ・ 【資料1】 第5回策定委員会資料
- ・ 【資料2】 新庁舎建設市民ワークショップ開催報告
- ・ 【資料3】 新庁舎建設基本計画（中間報告書）市民説明会実施計画書

## 審議経過

### 1. 開催の挨拶

委員長より開会あいさつ。

### 2. 前回議事録確認

委員からの前回議事についての意見、質疑は特になし。

### 3. 配布資料説明

(コンサルタント)【資料1】についてコンサルタントから説明。

(事務局)【資料2】について事務局から説明。

### 4. 議事

(委員) 一時避難対応について、来庁者はわかるが、付近の住民については近くに本来の避難場所があるので、庁舎に一時避難する必要はないのではないか。市役所は防災拠点としての機能であり、市の中核なので余裕がないと思う。

(コンサルタント)「付近の住民」と書いていますが、近隣住民という意味合いではなく、近くを歩いている人などを想定していました。「付近の住民」という表現は削除します。来庁者の帰宅困難者対応という趣旨です。

(委員) 私は言うべきではないと思う。はっきり「一時避難を受け入れない」とした方がいいと思う。本来の防災拠点としての機能をするにあたり、一時避難を受け入れると、その対応のために職員が本来の業務を行えない恐れがある。

(事務局) 避難の考えについては、防災計画で取り決めていきたいと考えています。

(委員) 阪神淡路大震災の時は神戸市庁舎に避難した実例がある。実際避難してきた人たちを排除するのは難しいのでは。

(委員) 福島の方でもボランティアの人たちが集まって、職員に「何をしたらいいか」と尋ねられたことも、職員にとっては重荷になることもあったと聞いている。

(委員) 防災計画をどう作るかによって、庁舎にどのような機能が必要か考えた方がいい。

(委員) 実際今までの経緯から考えて、近くに避難所があっても、市庁舎に避難してしまうケースはある。書き方は「来庁者」でいいと思うが、一時避難者の対応方針は、市として考えておいた方がいいと思う。

(委員長) これから災害対策をつくるでしょうから、市役所の役割が整理さ

れるでしょう。

(委員) コンサルタントの立ち位置がわからない。今後の構造計画やデザインなどの設計についても資料を提示して貰えるのか。

色々な意見を反映して実現可能な基本計画の内容としたはずが、設計段階でできないということにならないのかを危惧している。

(事務局) 基本計画策定の為の支援業務となっているので、次の設計段階で候補になることはありません。基本計画では、現時点での条件で出来ないことは当然書きませんが、基本計画の内容について、設計に全て盛り込めるかどうかについては、設計段階で再度検討し、取捨選択していく必要があります。その中でのたたき台としての資料をご提示して頂くこととなります。

(委員) 12ページ「イ 各種災害への配慮」について、非構造部材の配慮についても記載しておくべきと思う。東北の地震の時も比較的新しい建物でも天井材の落下などがあったので、設計の段階から注意が必要である。

(委員) 以前、木造庁舎についての意見があったが、木造の実現性や、木造の免震構造の採用の可否など、どこまでできるか教えてもらいたい。

(委員) 免震は什器の転倒や非構造部材の破損の抑制に効果が高い。ただし、免震構造はある程度重い建築に効果がある。木造住宅などの軽い建築の免震構造もあるが、評価しない人が多い。そういった意味では鉄筋コンクリート造とし、内装の木質化を推進していくことが考えられるが、いずれにしても、慎重な検討が必要である。

(委員) 木質化でも内装材はうまくいくが、外装材で使用するのは不燃や腐食の問題などでなかなかうまくいかない。外装まで木質化するのであれば、十分な検討が必要になる。

(委員) 木造で5階建ての事例もあるがコストが高くなると思う。

(委員) だから国から補助金がでるのではないか。

(委員) 外観はRC造と余り変わらない。

(副委員長) 11ページの図で「災害対策・危機管理機能等の強化」の⑤「セキュリティ・防犯対策」とあるが、「安心して利用できる窓口づくり」の④「プライバシーに配慮した窓口」の内容と概念的に重複していると思う。基本的機能の上の2つの大項目は強固な建物造りに関する項目とした方がわかりやすいのではないか。

(委員) 10ページの基本的機能の4番目「安心して利用できる窓口づくり」と5番目「分かりやすく快適な窓口機能の実現」は、両方とも窓口の項目となるが2つに分かれている。幅広く1つにまとめた方がいいのでは。

(コンサルタント) 事務局の中でも窓口に関する項目はまとめた方がいいという意見もありました。内容については再度整理いたします。

(委員) 14ページの⑤の「セキュリティ・防犯対策」で来庁者と職員専用エリアを明確に分けるとあるが、どういったことなのか文書がわかりにくい。

(コンサルタント) イメージ的には情報セキュリティの形となります。休日に市民の方が利用できるスペースを明確に分けることや、重要な文書など持ち運ぶための際、職員だけが上下階に移動できるような、セキュリティゾーンを明確にした計画を今後していく必要性をイメージしています。

(事務局) セキュリティゾーンのイメージとしては中段にある図で示しています。職員専用エリアのイメージとして、サーバー室や行政情報を管理する書庫・倉庫や職員の更衣室などがあります。

(委員) 13ページの②「災害時の庁舎機能の維持」ア「非常用電源の確保等」の項目で、太陽光発電について記載があるが、非常時だけではなく通常時も使用する内容を盛り込んで欲しい。今後の議題で「省エネルギー技術の積極的な活用」の項目があるが、この項目で再生可能エネルギーの活用も入れ込んだ意味合いなのか。

(コンサルタント) 今後の「省エネルギー技術の積極的な活用」の項目の議論の中に入れ込んでいけると思います。

(委員) 省エネルギー技術と再生可能エネルギーについては内容が違うので、ぜひ文言として盛り込んで頂きたい。

(委員) 商用電源が途切れた場合、自家発電設備についてはどの程度発電できる機能を想定しているのか。

(コンサルタント) 3日間(72時間)を想定しています。ただし庁舎全体の電力ではなく、災害時にも稼働させないといけない設備を対象に72時間という考えとなります。

(委員) 非常時のライフラインの確保について、電気・水道以外にもガス(天然ガス・LPガス)の確保についても検討を行っているか。また、ガスを燃料として庁用車の検討もされているのか。

(事務局) ガスの備蓄方法については、プロパンガスなどの方法もあるのかもしませんが、通常都市ガスを供給ラインとして使っており、備蓄を行うなどの方法論については、具体的に検討しておりません。庁用車の燃料については14ページのイ備蓄機能の確保の中で記述があります。

(委員) ガスについては東北の地震の際、中圧管については全部残っており、復旧が早かった。中圧のガス管が入るならそれを使った方がいい。そういった意味では、空調はガスヒートポンプで計画してもいいかもしれない。

(委員) 災害対策本部は、平常時は「庁議室」として利用と書いてあるが、使用人数や必要な部屋の規模などは釣り合っているのか。

(事務局) 災害対策本部には補佐役等の職員も入るため、若干人数が増える

かもしれないが、幹部の会議である「庁議」とほぼ同等の規模となります。

(委員) 必要な太陽光の発電規模と、蓄電した場合に何に使えるのか、階段室の照明程度か、エレベーターの動力には使えないなどの資料を用意して欲しい。

(コンサルタント) 恐らく使える対象は照明電力程度になるかと思います。何に使えるかの資料については用意します。発電規模に関しては今後の設計などによって変わります。

(委員) そもそも太陽光発電の蓄電はあまり効果がないので、あえて書く必要があるのか。それよりは、自然の空気の入入れなど、できるだけお金を掛けないで自然のエネルギーを使う、パッシブエネルギーの有効活用を中心として検討していくべきではないか。

そういった意味で、先程も意見があったが、省エネと再生エネルギーは別になるので、「省エネ技術の積極的な活用」は「省エネ技術等の積極的な活用」又は「再生エネルギー」という文言を含めた記述にすべきだと思う。

(委員) 両方の言葉を入れて頂きたい。清水建設の本社ビルは省エネ技術や再生エネルギーの積極的な活用をした結果、建築コストは1～2割上がったらしいが、3～4年で元は取れたとテレビで見たので、そういった技術を参考にして頂きたい。

(委員) 照明の工夫をしたり、断熱や自然換気を利用している。

(委員) 庁舎の安全性の表現について、「大規模地震」とはどの程度の規模の地震を想定しているのか、耐震性などの数値を表していただきたい。

(事務局) 耐震化整備方針では、 $I_s$  値 0.9 以上の防災センター機能が必要と謳っていますので、基本計画でも記述をしていきたいと考えております。

(コンサルタント) 現在の審議は基本理念の部分なので、基本計画の段階ではもう少し詳しく書きますし、資料編などで記述していけるとと思います。

(委員) 15ページの「分かりやすいサイン計画」において千代田区では「江戸紫」をテーマカラーとしている。清瀬市として象徴する色は何色なのかを検討し、ベースになる色を決めて、今後のサイン計画に反映していったらどうか。

(委員) 人参カラー、オレンジではないか。

(委員) イメージカラーを出すのはいいが、ピクトグラムとしての色はJISで決まりがある。視覚障がい者に分かりやすいカラーにしなくてはいけない。誘導サインの色については決まっていると思うので調べて頂きたい。

それとユニバーサルデザインを謳うのであれば、7つの原則について注意書きを入れるべきである。ユニバーサルデザインに関わる検討項目を現在3項目に絞っているが、もう少し項目があるはずだと思う。

(コンサルタント) 項目を絞ったつもりはありませんが、ユニバーサルデザインについての項目は多岐に渡るため、全ての項目について記載するのは難しいと考えています。

(委員) 3項目に絞ると、何かが抜けているのではないかと感じるので、項目について調べて頂きたい。

## 5. その他

(事務局) 【資料3】について事務局から説明。

今まで検討してきた基本理念までの部分について、中間報告書として市民説明会でお示ししてもよろしいでしょうか。また、同時にパブリックコメントを1か月間行い、より多くの市民意見を計画内容に反映させていきたいと考えております。結果については6月の策定委員会で報告したいと思います。

(委員) 了承。ただし、「省エネ技術等の積極的な活用」は反映すること。

(事務局) 連絡事項になりますが、委員会として先進事例の見学会を予定しています。視察先は立川市を予定しており、6月下旬以降の開催を考えています。今月中に立川市と調整をして、次回の委員会で詳細の日程をお示しいたします。

(事務局) 事務局より次回新庁舎建設基本計画策定委員会の日程について説明。

(事務局) 職員アンケートについては今月実施し、5月に取りまとめ、6月の委員会で結果をお示しいたします。

(委員長) 庁舎を毎日利用するのは職員なので、ぜひ意見を聞いて頂きたい。

(委員) 職員アンケートでは、今の庁舎に対する問題・課題をしっかりとあげて頂きたい。

(委員) J A等の敷地の取得について、話し合いはどうなっているのか。

(事務局) まだ確定はとは言えませんが、J A側の意向としては、新庁舎建設時期までには移転をする方向で考えているとのこと。

## 6. 閉会

(澄川委員長) 閉会の挨拶